

令和2年度当初予算における財政構造改革の推進状況

新たな「財政構造改革基本方針」(R2-R4)を着実に推進！

徳島は宣言する
VS東京

1 「財政構造改革基本方針」(H29~R1)の取組成果

(1) 「実質公債費比率」の改善

- ◆ 「実質公債費比率」は、1年前倒しで目標の「13.0%程度」を達成！
令和元年度には「12.1%」へとさらに改善が進み、「全国中位程度」の財政状況を実現！

「実質公債費比率」全国順位
(H28) 43位 → (R元) 27位

□ H28 16.7% → H29 14.6% → H30 12.8% → R元 12.1%

(2) 「公債費」「県債残高」の縮減

- ◆ 「公債費(臨財債を除く)」は、令和元年度予算(2月補正後)で「471億円」と12年連続の減となり、目標の「500億円未満」を達成見込み！

□ H28末 562億円 → H29末 514億円 → H30末 509億円 → R元予算 471億円

- ◆ 「県債残高(臨財債を除く)」は、令和元年度末で「4,910億円程度」となり、県土強靱化を加速する中であっても、目標の「5,000億円未満」を確実に下回る見込み！

□ H28末 5,154億円 → H29末 5,011億円 → H30末 4,896億円 → R元末 4,910億円程度

(3) 「財政調整的基金残高」の充実

- ◆ 「財政調整的基金残高(財調+減債)」は、令和元年度予算で「810億円」を確保し、目標の「800億円」を確実に達成！

□ H28末 610億円 → H29末 720億円 → H30末 790億円 → R元末 810億円程度

未来投資を支える「持続可能な財政基盤の確立」に向けて

2 新たな「財政構造改革基本方針」(R2~R4)による取組み

(1) 財政構造改革の方向性

- ◆ SDGsを実装する「政策創造」と「健全財政」の両立
⇒ 二つの国難「人口減少」「災害列島」の打破や、財源措置の有利な「新設地方債」の積極活用など
- ◆ 予算編成における「働き方改革」の実装
⇒ 「R2当初予算編成」では、従来の「サマープロデュース」を廃止、「マイナスシーリング」を撤廃



(新基本方針HP)

(2) 新たな「改革目標」

◆ 「実質公債費比率」の堅持

□ 「実質公債費比率(現行目標:13.0%程度)」 令和4年度まで「12%台以下」を堅持

◆ 「公債費」「県債残高」の縮減(「臨財債」及び「国緊急対策に伴う新設地方債」を除く)

□ 「公債費(現行目標:500億円未満)」 令和4年度末までに「440億円未満」へと縮減

⇒ [R2当初予算] 461億円

□ 「県債残高(現行目標:5,000億円未満)」 令和4年度末までに「4,800億円未満」へと縮減

⇒ [R2末見込み] 4,840億円程度

◆ 「財政調整的基金残高」の適正管理

□ 「財政調整的基金残高(現行目標:800億円)」 令和4年度まで「800億円以上」を堅持

⇒ [R2末見込み] 800億円程度